

『平成 29 年度森林総合研究所関西支所 公開講演会』に参加しました

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター 近畿北陸整備局

平成 29 年 10 月 30 日（月）「竹の駆除は容易じゃない」をテーマとする『平成 29 年度 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所 公開講演会』が、JR 京都駅前にある龍谷大学響都ホール校舎において開催され、当日は約 180 名の方に来場していただきました。

講演は、「ひたすら刈れば竹は再生しなくなるのか?」「除草剤を上手く使えば効率がよい」「駆除作業のコストや手間を試算する」の 3 点にスポットを当てて行われました。質疑応答の時間では、再生しないような竹の刈り方、除草剤の効果や竹を新たな資材として活用できる方法などに対する質問が多くあがり、筍の食文化が根付いている京都にあっても、放置された竹林の問題がいかに深刻であるかということが窺い知れる講演会でした。

近畿北陸整備局（京都府京都市）では、会場に「水源林造成事業の目的と仕組み」、「これからの作業道づくり」の 2 つのパネルを展示しました。そして、参加者の皆様に、森林の公益的機能の維持増進を目的とした水源林造成事業や低コストで崩れにくい作業道の「のり留工」の説明を行いました。大きく頷きながら、森林整備センター職員の説明を聞いていただけの方もおられました。

近畿北陸整備局は、今後もこのような活動を通じて、森林の大切さを理解していただく機会を作って参りたいと思います。



【会場の様子】



【パネル説明の様子】